第65回 たるみず歴史・文化散歩

桜島の大噴火と垂水島津家墓所

発掘調査による新発見

垂水市で現状唯一の国指定史跡である『垂水島津家墓所』では、令和2年度に起きた土砂崩れからの災害復旧を行っています。今年度前半は、史跡内の発掘調査を行いました。

柱の跡や新たな石造物の全景把握など、考古学的な成果もありましたが、なにより大きな成果は、18世紀末に起きた桜島の大噴火の痕跡、『安永の桜島火山灰』が、面的に見つかったことでした。

今も私たちの生活と共にある桜島は、文字資料に残るだけでも、幾度かの大噴火を起こしています。大隅半島と陸続きとなった大正3年の大噴火が有名ですが、江戸時代の終わりごろにも同じような規模の噴火が起きていました。その火山灰の一部が、垂水島津家墓所の地層から見つかったのです。

▲ 安永火山灰と洪水による砂層

新発見による疑問

しかし、ここで疑問が生じました。墓所北側のお墓は、安永の桜島火山灰を断ち切って造営されていたのです。つまり、安永の大噴火が起こった江戸時代の末期以後に、北側のお墓が今の位置に建てられたということです。

さらに、安永の火山灰やその周囲の砂をよく調べてみると、大規模な水の影響による積もり方をしていることがわかりました。これは、この場所で洪水と土石流のような現象が起こったことを示しています。

歴史の1ページとなる

これらをまとめると、シラスのがけ下にある垂水島津家墓所では、土砂崩れや洪水などに何度も見舞われ、そのたびに、土地の造成などによる災害復旧を行い、範囲を拡縮させながら、今の姿をつくっていたということが推察されます。垂水島津家墓所は、江戸時代から災害と共にあったのです。

今行っている令和の災害復旧もまた、墓所の歴史の1ページになるのかもしれません。先人たちに恥じないよう、また、未来にこの歴史を残せるよう、史跡整備に努めてまいります。なお、今回ご紹介した砂層のある箇所は、工事範囲であるため見学することはできません。

▲ 墓所境界の柵石が砂を断ち切っている

【参考】
『垂水市史料集（十八）垂水と桜島噴火』
発行／垂水市教育委員会

（市教育委員会　髙嶺光佑）

SECOND SEASON

食改（しょっかい）キッチン

Healthmate recipe of this month
今月のレシピ

ピーナッツ豆腐

【材料】（10人分）

- □ 落花生／1/2カップ
- □ さつまいもでんぷん／1カップ
- □ 水／6カップ
- Ⓐ
  - □ 梅干し／6個
  - □ 濃口醤油／大さじ4
  - □ ざらめ／大さじ2
  - □ みりん／大さじ4

ーワンポイントアドバイスー

すり潰した落花生を濾してさつまいもでんぷんと固めた鹿児島の郷土料理です。今回は生の落花生を使用していますが、炒った落花生を使うと、少し小麦色のピーナッツ豆腐になります。『一晩水に浸した落花生1：からいもでんぷん1：水6』の割合で作るのがポイントです！

【1人分あたり】
エネルギー　143kcal
食塩相当量　2.0g

③ ②と水をミキサーにかける。※水は6カップの内、適量を使用し、残りは⑤で使用する。

② ①をザルにあげ、軽く水気を切ったら、薄皮をむく。

① 落花生は前日から一晩水に浸しておく。

⑥ ⑤を弱火で火にかけ、手を止めず20分程度、練り続ける。

⑤ ④の絞った汁と、③の残りの水を鍋に入れ、さつまいもでんぷんを入れてよく混ぜる。

④ ③をさらし布で濾して、よく絞る。

⑨ Ⓐを鍋に入れて、とろみが出るまで、弱火で煮詰める。

⑧ 水で濡らした型に、⑦を流しいれる。荒熱を取り、ラップをかけて、冷蔵庫で冷やす。

⑦ ⑥が白く、色が変わり、鍋底から気泡が10回程度湧き上がってきたら火を止める。